

<金標準、地政学的なリスクを織り込み買われ過ぎの域・・・>



(出所：オアシス)

FRBは経済指標を受け、インフレ高の動きに6月の利下げ観測が後退したが、ECB理事会ではラガルド ECB 総裁は「われわれはデータに依存しており、米当局に依存しているわけではない」と発言し、6月のECB理事会で利下げを行う可能性を示唆している。そのためユーロは対ドルで売られる動きを見せるなどドル高の様相を見せている。しかしNY市場では、イランがイスラエルを報復攻撃する確率が高まりを見せ、48時間内にイラン国内からイスラエルに向けてミサイル攻撃の可能性が高いと報じられ、地政学的なリスクの高まりからNY金は一時2448.8ドルまで高値を試すなど、中東情勢の緊張を受けた買いで大きく上昇している。しかし2400ドルを超え、2500ドルが見えだした事から短時間で上昇した買われ過ぎの域を見せ、急速に利益確定で反落している。そのため金標準も11935円まで高値を試しながら11508円まで427円の下落を行うなど、中東リスクを織り込み高値を試した可能性は強まったと思え、11380円を下回る修正安の値動きには注意が必要と思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDやRCIでは、MACDはMACDの切り上げが止まり、シグナルは上昇している。またRCIでは短期と長期が+90%を超えて維持しており、高値追いを示唆している。ただ買われ過ぎた値動きであり、11380円を下回る値動きには注意が必要と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,445,000 円(2024 年 4 月 15 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 79,200 円(2024 年 4 月 15 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>